

排泄において自立支援に つながった一症例

～ 移乗サポートロボットの活用 ～

社会福祉法人 サン・ビジョン

介護老人保健施設 ジョイフル名駅

理学療法士 早川智也

はじめに

【 ノーリフティングポリシーの導入 】

新たな痛みなどの
身体的負担

転倒・転落

腰痛

はじめに

- 移乗介助についてはリスク管理や介護負担の面から、安全で負担の少ない方法で実施
- 今回、ノーリフティングポリシーの観点からハグを使用した移乗介助の導入により、利用者様のQOLと職員の身体的・精神的負担に変化があったため、ここに報告する

ハグの紹介

【ハグのできること】

- 移乗介助と安定した立位を保持する
- 職員一人での操作
- 介助時にすぐに使用
- 脚力を最大限に活かす



ハグの使用法

①

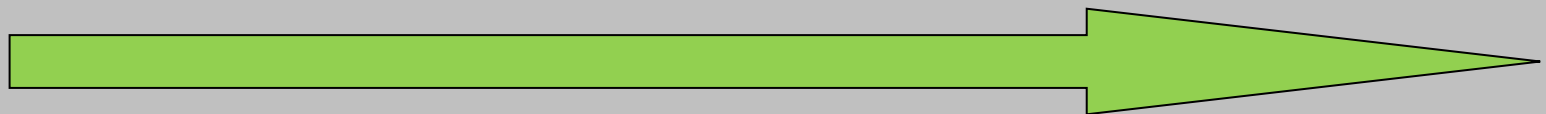
ハグに寄りかかる

②

上体を起こす

③

脱衣介助・着座



症例紹介

- ・ 年齢：70歳代 ・ 性別：女性 ・ 要介護度：3
- ・ 性格：依存的、思い込みが激しい
- ・ BMI：17.5（身長：158cm 体重：43.8kg）
- ・ 身体自立度：B2 ・ 認知症自立度：Ⅱb
- ・ 診断名：認知症（HDS-R 14点）、右片麻痺、
右変形性膝関節症、腰椎圧迫骨折、
左視床出血、多発性脳梗塞、骨粗鬆症

ハグ使用前の問題点

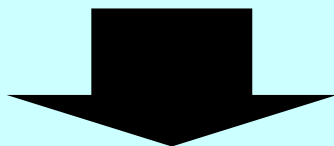
- トイレ動作は中等度介助
- 認知症状によりトイレに行ったことを忘れ、日中、排泄の訴えが 1回 / 30分
- 思い通りにいかないと大声で叫び、音を出す等で職員や他利用者様に訴える
- 介助者が来るまで**5分**待てない



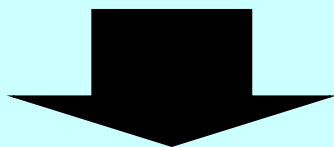
排泄方法をトイレからパット内排泄に変更

経緯①（利用者様）

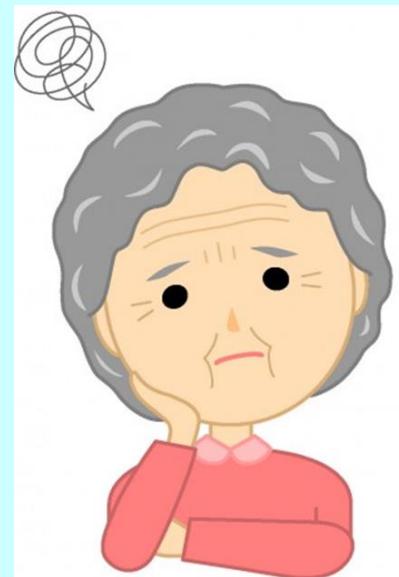
トイレに行きたい



すぐに対応してくれない

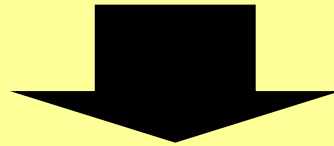


トイレに行けない不安感から
トイレ希望が増加（1回 / 30分）



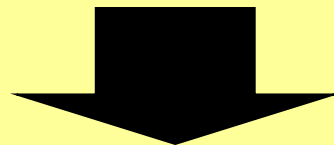
経緯②（職員）

トイレ誘導を行っても**1/3回**は出ない



移乗時に抱え上げ介助で行うため、身体的に負担

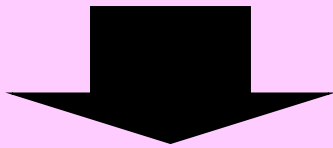
トイレ希望が**1回 / 30分**あり、業務を圧迫



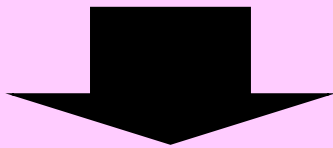
希望時にすぐに対応できず、精神的に負担

実施方法

ハグの使用方を
職員に指導



介助時にハグを使用



利用者様、職員9名に
アンケートを実施



結果① 利用者様の変化

- 待たなくて良くなったの
- 自分で動作が行える感じがしたわ
- 職員の介助の差が減ってよかった



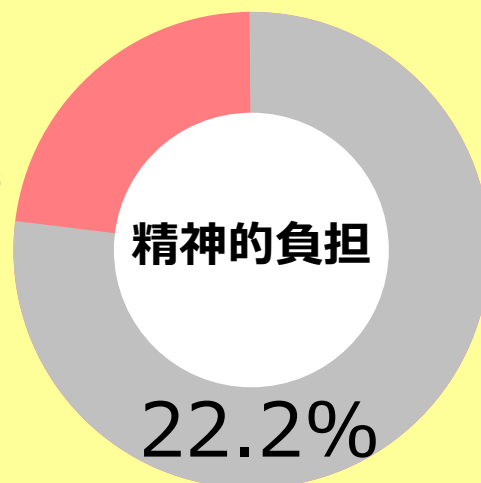
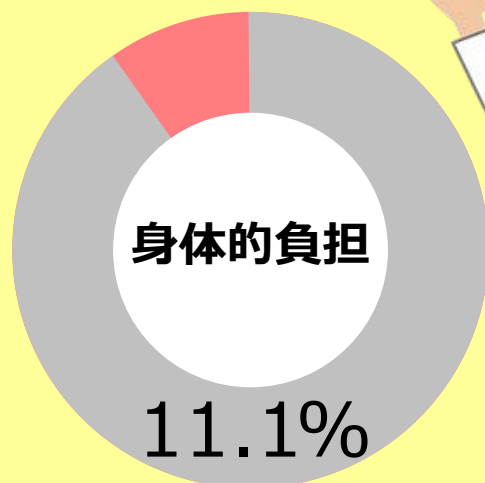
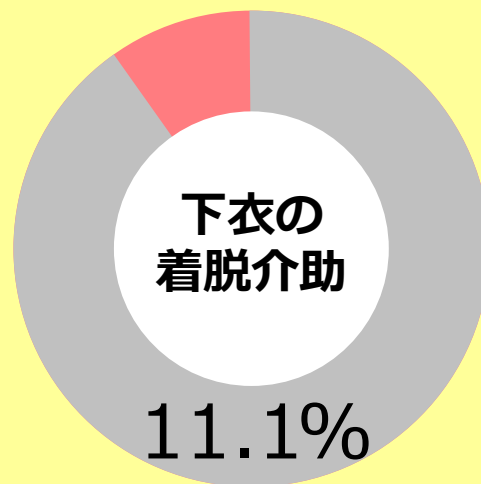
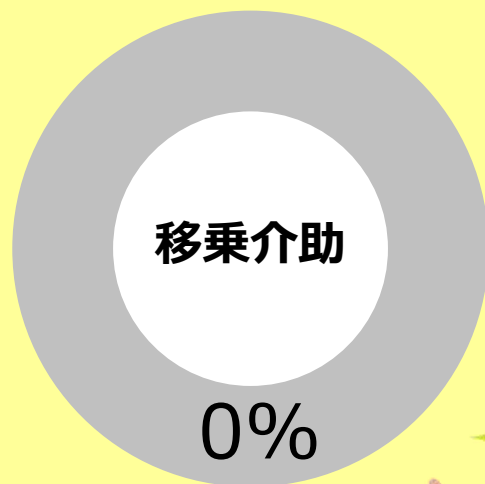
- 日中の排泄の訴え 1回 / 30分 ⇒ **1回 / 時間**
- **満足度向上**

結果②-1 職員の变化

ハグ導入による变化（対象9名）

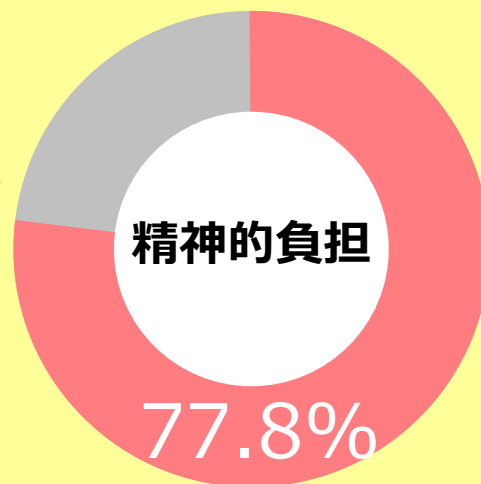
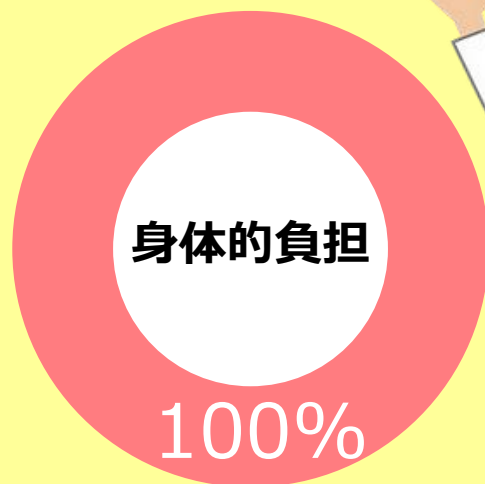
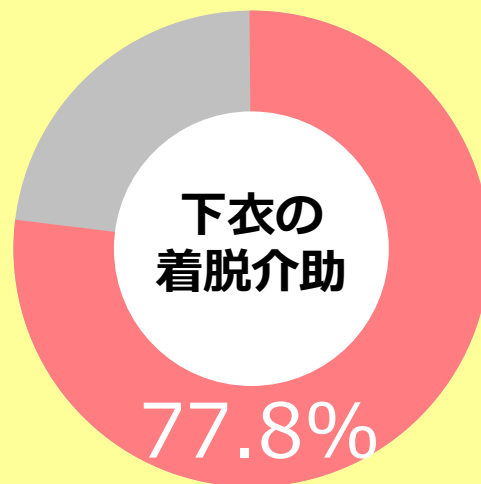
負担感		満足度
88.9% ➡ 0%	移乗介助	100%
66.7% ➡ 11.1%	下衣の着脱介助	77.8%
88.9% ➡ 11.1%	身体的負担	100%
66.7% ➡ 22.2%	精神的負担	77.8%

結果②-2 職員の变化（負担感）



■ 負担 / やや負担 ■ その他

結果②-3 職員の变化（満足度）



■ 満足/やや満足 ■ その他

考察（利用者様）

- ・ トイレに行けない
- ・ トイレに行くのに時間がかかる
- ・ 職員の介助技術に差がある

ハグ導入

- ・ トイレ排泄が可能
- ・ 待たずに行ける
- ・ 安心して
トイレに行ける

Q
O
L
向
上

考察（職員）

- ・抱え上げ介助
- ・転倒の不安
- ・頻回な
トイレ希望
(1回 / 30分)

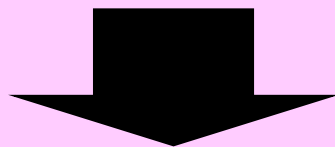
ハグ導入

- ・抱え上げ不要
- ・安全な移乗
- ・トイレ希望
の減少
(1回 / 時間)

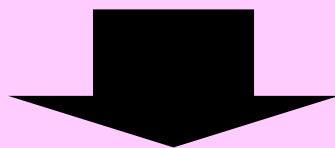
負担感軽減・満足度向上

課題

ハグに依存



ハグ使用時に立ち上がり動作を促す



さらなるQOLの向上を図る

まとめ

パット内排泄からトイレでの排泄へ



- 利用者様の尊厳を保つ
- **自立支援**につながるケア
- 身体的負担（抱え上げ介助）の軽減
- 精神的負担（転倒の不安、トイレ希望）の軽減



利用者様のQOL向上
職員の負担感軽減と満足度向上

ご清聴ありがとうございました